

## 志賀高原スキー漫遊記

岡山支部 関 直之

私は昔からスポーツが好きで、野球、卓球、剣道、スキー、テニス、ゴルフなど目につくものは何でもかじってきました。体を動かすことは好きでしたが上手になったものは一つもありません。その中でもスキーは長く続いた方です。雄大な山々の雪景色を見ながらスロープを滑り降りる爽快さは何とも言えません。昭和45年に岡山県庁スキークラブ（略称OKSC、岡山県庁スケベエクラブと呼ぶ者もあり）に入会し、OBとなった今でも名誉会員として続いている。80歳を迎えて体力的に限界を感じていますが、シーズン中に1回だけこそっと一人で出かけることもあります。今回は若い頃（昭和48年）にOKSCの仲間と志賀高原スキーに行ったことを岡山弁丸出しでご紹介いたします。

今度天皇誕生日が日曜と重なって月曜が休みになるんじゃでえ。一丁春スキーでも行っちゃるか。なんと志賀は4月いっぱい熊の湯と横手山がリフトを動かしとるそうなでえ。かくして志賀高原春スキープロジェクトチームが編成された。その面々は次のとおり。

高島 基（準指導員）=タカさん（以下このように略す。他も同様）

岡崎時夫（1級） =トキさん

井上喜信（2級） =イノさん

横山天門（2級） =ヨコさん

上岡直己（2級） =ウエちゃん

関 直之（2級） =ワタクシ

共通特徴は顔がまずくて口悪し、ただし気の良い連中である。それによく屁をこく。前日仕事そっちのけでごそごそスケジュールを決定した。まず日程は次のようなハードスケジュールとなった。

4/27（金）午後7時出発（夜行運転）

4/28（土）朝 志賀高原到着

4/29（日）（滞在）

4/30（月）午後 志賀高原出発（夜行運転）

5/1（火）朝 岡山到着、お仕事に出る

タカさんとトキさんの車を提供してもらい、3人ずつ分乗り交替で運転することとした。

1号車 タカさん、トキさん、ワタクシ

2号車 ヨコさん、イノさん、ウエちゃん

さて、出発の時。各々思い思いの奇妙ないでたちで県庁職員駐車場に集合。

予定より少し遅れて19時15分スタート。トリップメーター0km、ガソリン満タン。各方面からの差し入れもトランクに満載して1号車タカさん、2号車イノさんの運転で最初の休憩地点である姫路の東洋モーテルへ向けて国道2号線へ出る。

途中トランシーバーで連絡を取り合いながら東洋モーテルへ21時35分到着。人間どもの腹を満タンにして、2号車はヨコさんに運転を替わり次の休憩地点である養老サービスエリアへ向けてレッツゴー。加古川バイパス→第2神明→阪神高速→名神高速と車は快調のペースで我々を運んでくれる。

28日（土）0時10分養老サービスエリアへ到着。トリップメーターは320km。1、2号車に給油、タイヤにエアー補充して、眠気覚ましに用意してきたコーヒーをイノさんが常日頃の慣れた手つきで入れてくれたのを飲みほし、代りに小便を放出して出発。車の重量は小便分だけ軽くなった。

名神高速から中央高速、19号線と移り、恵那ドライブインへ向けてエッサホイサ。恵那近くで会話も途切れがちで少々眠い。突然トランシーバーに妙な会話が入りだした。しばらく聞くことにした。

「こちらR301の何とかかんとか、どなたか応答願います」

「ハイハイ、こちらKの何とかかんとか、感度は如何ですか」

「感度良好、今何をしていますか、ドウゾ」

「ハイ、こちらこれからカアちゃんと寝ようと思っております。ドウゾ」

何だか会話がおかしくなってきた。

「サウンドはかなりクリアですが内容がクエスチョン、再度お願いします」

「ハイハイ～、アッハッハ」　？？？？？

どうもおかしいと思ったら、2号車のイノさんがうまく相手に合わせてやってらっしゃるよ。少々気の毒になりトキさんが割り込んだ。

「エエ、こちら岡山県車内放送です。ドウゾ」

「えっ、一体何ですか。ドウゾ」

何のこっちゃ、相手はますますチンパンカンパン。

そこでワタクシが替わった。

「我々は、岡山県から2台の車でトランシーバーを使って交信しながら志賀高原へ向けてドライブ中です。そこへあなたの無線が入ってきたわけです。どうもスンマセンでした。これからチャンネルを切り変えてやりますので許してチヨ一ね。ドウゾ」

「なんだ、そうでしたか。アッハッハ。それじゃ気をつけて行ってきてください」

「どうもありがとうございます。では恵那のドライブインへ着きますのでバハハイ」  
お陰で眠気も覚めて休憩。人間どもに名物きしめんを補給して、1号車ワタクシ、2号車ウエちゃんに運転を替わり、2時40分、心地良いエキゾーストノイズを残した。  
トリップは418km。

塩尻辺りで夜が白みかけてきた。快晴である。目がコロコロする。

松本でドライブインマツモトへ寄り一斉に放尿。岡山の美味しい水をわざわざ持ってきてやったのだという満足感を得る。1号車タ力さん、2号車イノさんに運転を替わり、車も軽やかに出発。5時10分。トリップ549km。

長野を6時40分に通過。途中給油して志賀高原の有料道路へと差し掛かる。

アリヤー、雪が全然無いで～、

途端に2号車から「2号車から1号車の関さんへ。ドウゾ」

「ハイハイ～、ドウゾ」

「雪がネエじゃねえーか。わりやーこの落とし前をどうつけてくれるんじゃ。ドウゾ」

「どうもスンマセン。こんなはずじゃ無かったにボソボソ、ドウゾ」

「スンマセンじゃねえぞ。ドウゾ」

「上方にも雪が無かつたら直ちに折り返して岡山へ帰ります。ドウゾ」

「えーっ」

かくして8時5分、これからお世話になる宿舎の志賀山荘へ到着。

「こんちわー、オッサン来たでー」

「やあやあ、ドウゾお上がりください」

ウエちゃんが「あーやっと着いたか」と大あくび。ついでに下も「ブーッ」と快音一発。

「オッサン電話と話が違うでえ。一体これで滑れるんかい？」

「ハイハイ皆さん、熊の湯や渋峠のゲレンデで滑ってますよ」

「ほんまかいな」

とにかく荷物を降ろして渋峠に登ってみることにした。本当に積雪は大丈夫なのかと内心祈っていたが渋峠まで来ると、あるわ、あるわ、十分過ぎるくらい。おまけにリフトはガラガラ。ヒヤッホー。

「やいテメーら、まだ文句があんのかよー。ドウゾ」

「どうもスンマセン。ドウゾ」

まだトランシーバーの口調が残ってやがる。

それゆけー。滑って滑って滑りまくれとばかりに気違いども6人はゲレンデの粒と散らばった。

青空のもと、眺望を楽しみながら皆ヤーヤッコーと疲れも見せずに水を得た魚のようにスイスイスラローム。ワタクシ一人がドッテンバッタン。それにしても雪の汚いこと。雪は白いものと思っていたらここの雪は黒い色をしてけつかる。久しく雪が降らないし、すぐ近くを草津へ抜ける観光目的の車がほこりと排気ガスをまき散らして通るからだろうと思う。標高2,000mを超えるのにここまで公害は及んだか。古ぼけた雪とでも言ったらぴったりだ。

ゲレンデはざっと100人位のスキーヤーでリフトは待たずに乗れる。コースは上から大きな三つの段になっており、規模は大山の上の原程度である。今頃中国地方の山々をいくら探しても、まずこれだけ広く雪の付いた所は見当たるまい。まだ局所的には4mくらいの残雪がある。さすがに寒い。

渋峠ヒュッテで昼食を済ますとタカさんとヨコさんは車の中へ入ってダウソ。ワタクシを含めあと4人は育ちが悪いせいか滑らにや損とばかりに眠けマナコをこすりこ

すり節つきシュプールを描きまくった。

第1日目は前夜ドライブで体力を消耗させており、それに睡眠も充分取ってないので早めに切り上げて宿舎へ帰る。帰ると早速夕食前の酒盛りが始まる。イノさんとヨコさんがめっぽう酒好きときているから覚悟はしていたものの、とうとうヘベレケのオラは死んじまっただーになってバタンキュー。意識が回復したところで夕食。1泊2食で1,000円にしては大したご馳走だ。皆日頃よほどマズイものばかり食っているのかウメー、ウメーとガツガツ喜んで食っている。トキさんなどは嬉しくなって異常なサービスぶり。

「オッサン、風呂沸かすんなら薪を割ったろか」

「うちは灯油で沸かしてんだよ」

「そんなら灯油割ったろか」　　？？？ト－ユー意味？？？

タカさんは名うての酒嫌いである。夕食の奈良漬けで酔っ払ってしまった。

イノさんの傍にいるとオナラ漬になる。どうも10分に一度は発射してないと食欲が湧かないらしい。以前大山に行く途中、勝山の食堂でやらかし、他のお客様が全部外へ逃げ、窓を開けるやら換気扇をつけるやらで大ワラワした時があった。

何はともあれ食後の酒盛り。

「全く好きねえ、そんならチョッとだけよ」がまたバタンキュー。今度はイノさんもウエちゃんも枕を並べてご臨終。後で聞くとワタクシは眠りながらも風呂にだけは入ったそうな。

さて、2日目の朝7時前、イノさんのオナラの音で目が覚める。眠りながらもよく出るものだと感心しながら起きると、タカさん、トキさん、ヨコさんはもうとっくに起きて散歩などしたらしい。スキーバスやマイカーがもう沢山登って行ったぞと言っていた。今日は渋峠は人が多いかも知れない。

この宿舎には我々のほかにもう一組のグループが来ていた。聞くと東京新宿区役所の連中だそうで、男2人、女2人の若い4人グループである。何故か一部屋しか取っていない。ワタクシはコドモなのでそれ以上は考えないことにした。

宿舎は管理人のオッサンと奥さん、それにスピッツ系雑種のチエリという大人しい可愛い犬がいる。オッサンとオバサンの2人だけでよくやるわと感心していたら4月にな

って我々と新宿区役所組が初めての客だそうな。

チエリは色々な芸をよくやり、特にチンチンが上手でワンダフルと褒めてやりたい。トキさんはこの犬を一番可愛がって常に抱いて歩いている。しかしトキさんがあの顔で犬を抱くなぞ思ってもみなかったことで、まるでゴリラが犬をいたぶっているようで何とも奇妙な図である。犬も怖がらずによく我慢をしたものだ。

今日はおにぎりを作つてもらって、昨日日星をつけておいた白根山の方の斜面へ上ることにした。車でグングン登り昨日の渋峠ゲレンデを横目に通り過ぎ、その斜面の近くまで行って車を止め、後は歩いて登った。今日も快晴である。昨日より少し暖かい。日焼けで黒くなつて婿に行けなくなつたらどうしようかとふと思う。

斜面の上まで登つて下を見ると急なため途中の斜面は見えず、下の平雪面が直接目にに入る。ウエちゃんが「コイツア一面白れえ」とたまらず一声。

タカさんがまず準指導員の面目を施して最初のシュプールを華麗に描いた。負けてはならじと次々に続く。案外滑り良いが、ワタクシは持ち前の〇脚スタイル。どうしてうまくならねえのかなあ。いっそこのまま曲進系ならず関進系として完成させようか。斜度は大山の豪円山の急斜面くらいはある。ここはリフトが無いので登りが大変。何しろ高いところなので、酸素が薄いせいか呼吸が口だけでは足らず、口で吸つては尻で吐いて一生懸命登つた。後に続く者は鎌で雪面の上を刈つているように見える。どうもクサカッタらしい。

昼までに写真を撮つたりしながら3～4回滑つたらグロッキーになり、ヨコさんなんか尻で吐く音も弱々しい。そこで特製のおにぎりで昼メシにすることにした。

昼からは白根山を散策してみようと衆議一決。

まだ足は重かったが、全員その場へスキー板を置いて更に上へ登つた。上に登ることは全員割と得意としている。何故なら昔からよく言うではないか“阿呆のタカアガリ”。しかレインフレの御時勢には何でも上がらんや時代遅れだ。

ずっと登ると噴火口跡のようなところに黄緑色の水を湛えた気味の悪い池があつた。案内板によると「弓が池」とのこと。

散策を終えて今度はリフトのある熊の湯まで降りることにした。ちょうどその頃30分ほど雪が降つた。今頃雪の降る光景を見ようとは夢にも思わなかつた。

熊の湯ゲレンデは所々三文ハゲのように地肌が覗いているが結構滑れる。ゲレンデはリフトを降りて最初に木や笹の中を抜けて急斜面の上に出る。中ごろまではコブだらけで狭いが残り半分のコースは何でもない。ウエちゃんがどうした訳かビビッてしまった。しかしここでは皆よく転ぶ。あんまり転ぶからゲレンデばかりかこちらまでコブだらけだ。コブコブ同士でお似合いである。イノさんは最近滑りが安定して見ていて危なげがない。そんなこんなで心ゆくまで滑って宿舎へ帰ることにする。

夕食のあと、ワタクシの提案で草津温泉に行ってみることにした。まだこのメンバーの中では誰も行ったことがない。歌にも“一度はおいで”とあるではないか。車で30分くらい走ると草津温泉である。

街の真ん中に「湯畠」というお湯の池があって、そのあたりは湯気でもうもうとしている。無料で湯に入れるところはないかと尋ね、「白旗の湯」があると聞いて行ってみることにした。

イノさんが「ワシラはまるで黒い顔をして山から下りてきた山猿の集団みたいじゃ」などと例の大聲で喋りながら歩いていると観光の女の子のグループがこちらを見て笑っている。イノさんが睨むと余計に笑われた。

「白旗の湯」は素木を組んだ小屋となっており中は薄暗く狭い。先客もあり、6人は少し窮屈そうなので「他へ移ろうか」と話していると、湯に浸かっていたオジサン曰くに「草津に来てここに入らなくては話にならん。原湯はここだけなんすよ」

湯に浸かったり土産を買ったりして宿舎に帰ったのが22時過ぎだった。

今回のスキープランは本当に豪華パッケージである。

さて、明けて3日目は最後の日なので帰りの都合を考えて昨日と同じ熊の湯を荒らすこととした。今日も快晴である。皆、誠に黒々とよく焼けた。中には赤く焼けている者もいる。鬼が島へ黒鬼、赤鬼退治にやって来たような気分である。朝、東京新宿区役所グループや管理人のオッサン、オバサンそれに犬のチエリも含めて全員で宿舎の前で記念撮影。シャッターが切れる瞬間、新宿グループの女の子がイノさんの頭の後ろで手を「パー」にしている。本当によくやるよ。

今日をもってスキーは約6ヶ月のお休みとなるので、心置きなく滑らなければならぬ。滑っていると何処からかゲレンデに犬が出てきて吠えながら追いかけてくるのには

閉口した。俺たちや鬼が島の鬼じゃねえぞ。コノヤロメ。

午前中滑り、昼過ぎに数々の楽しかった思い出を残し志賀を後にした。

さようなら。さようなら。帰りの車の中がまた賑やかなこと。

「オメー黒いのう」「いやオメーの方が黒い」「何言うとんじゃオメーが黒い」

「こちら1号車です。2号車ドウゾ」

「ハイこちら2号車です。ドウゾ」

「ブッ。何の音か分かりますか。…ワークセー！」etc.

昭和48年5月1日（火）午前5時岡山着。全員元気良し。





筆者近影（岡山県新見市いぶきの里スキー場にて）